

全労連青年部長の保科です。

議案書 16 ページの部分を補強する立場で全労連青年部の取り組みを発言し、討論に参加します。発言します。

全労連青年部は、9月の定期大会で「声をあげなきゃもったいない！青年が声をあげれば変えられる！今こそ憲法を生かして、将来に希望をもち、安心して働ける社会に！～多くの仲間を迎えて最低賃金大幅引き上げ、全国一律最賃制度を実現しよう～」をスローガンに一年間活動をしてきています。

今年度は、新型コロナウイルスの猛威によって、計画していた青年春闘交流集会やユニオンユースアカデミーについて相次いで中止の判断をせざるをえず、不完全燃焼感のある一年でした。

しかし、漫然と中止するのではなく、6月にはユニオンユースアカデミーの代替企画として「全労連青年部ウェブセミナー」を開催しました。慣れないオンライン開催という環境でしたが、蓋を開けてみれば参加者は例年の集合形式のユニオンユースアカデミーよりも多く、11単産16地方組織から69名の参加で大きく手ごたえを感じるものとなりました。何より久しぶりに全国の仲間の顔を見ることで、元気をもらったという声は多くあったのではないかと思います。9月に予定している青年部の大会もオンラインでの開催を余儀なくされる状況下ではありますが、お互いに励ましあいながら取り組みを進めていきたいと思えます。

最低賃金の課題では、大阪労連青年部がコロナ禍で最賃体験を行ったり、京都が今月から最賃体験を始めたりするなど取り組みが広がっています。

またともに暮らすことのできない最低賃金の低さが、コロナ禍のもとでより明らかになってきていると思えます。全労連青年部としても昨年に引き続いて意見書を作成し提出しました。

この1、2年を振り返ってみても、三重や兵庫で青年部再建の動きがありました。これまでの定期大会やユニオンユースアカデミー、春闘交流集会で作り上げ、深めてきた交流が相互に作用し、各地で活動が活発になってきています。

こうした嬉しい報告を多く耳にすることができ、私たち青年部としても、本当にうれしく思っています。

今後も青年の要求前進を目指して取り組みを進めていきたいと思えます。

また、予算についても発言をさせていただきたく思います。全労連が財政上厳しいのは理解できますが、同じく部として運動をする他の補助組織に比べて予算の削減率が高いように感じます。この間、限られた予算の中で春闘交流集会やユニオンユースアカデミーを何と

か開催できるように、四役会議をいち早くウェブ上で開催するなど工夫をしながら 1 年間の取り組みを進めてきました。

次年度の予算をみると活動の量を減らさずに、更に工夫をしなければなりません。現在全労連青年部では、単産・地方ともに常任が空白となっている枠があります。全単産・全地域単位から青年を選出できるのが理想です。しかし、人が増えれば予算が増えるわけでもなく、1 回あたりの会議費用は増え、非常に悩ましく思います。

全労連運動の次世代を担うのが青年部だと思います。必要以上に取り組みに制限がかからない配慮をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、新型コロナウイルスの影響下でこれまでのような取り組みが出来ない状況はまだ続くと思います。しかし、労働組合がより一層求められていると捉え、何ができるのか、やれることに積極的に挑戦していく決意を表明し、発言とします。

以上で発言を終わります。